

# マスターポイント規則

1998年1月改定

2004年4月一部改定

2006年6月改定

2007年4月一部改定

2009年4月一部改定

2011年1月一部改定

2012年12月一部改定

2017年4月一部改定

2017年8月一部改定

## 第1章 マスターポイント計算式

### 第1条 ウィークリーゲームのマスターポイント計算式

マスターポイントは、ゲームのクラス、参加ペア数（競争者数）、ゲームの種類等を考慮して次の公式で計算する。

#### ① 公式中の記号と係数

K：クラス係数	クラス 1	-----	1
	〃 2	-----	2
	〃 3	-----	3
	〃 4	-----	4
	〃 5	-----	5

下位のクラスに該当する参加制限がある場合は当該クラスの係数を使用する。

C：競争者数	インディビデュアルでは参加者数
	ペアでは参加ペア数
	チームでは参加チーム数

P：ゲームの種類による係数	
ペア、インディビデュアル	1
チーム	2

S：セッション数

P<sub>m</sub>：チームのメンバー数

G<sub>i</sub>：各ゲームの1位のMP  $i = 1 \sim \ell$ 、 $4 \leq \ell \leq 9$

M：1試合で獲得できる最大のVP（勝敗で決定するときは1）

V：勝ち又は引き分け試合の合計VP（勝敗で決定するときは勝数）

B：1試合のボード数

N：順位

② 計算式

$$\text{㉑} \quad \text{ウィークリーゲームのマスターポイント} = \frac{K \times C \times P \times S}{100} \times (0.7)^{N-1}$$

$$\text{㉒} \quad \text{VPまたは勝敗でのチームゲームのマスターポイント} = \frac{K \times B \times V}{100 \times M \times P_m}$$

$$\text{㉓} \quad \text{シリーズのマスターポイント} = \frac{G_1 + G_2 + \dots + G_i}{2} \times (0.7)^{N-1}$$

但し、1点をこえない。

第2条 クラブ選手権試合以上の格のマスターポイント計算式

クラブ選手権試合以上の格のマスターポイントはセッションとオーバーオールの両方を計算する。このマスターポイントは、セクショナル以上2セッション以上の試合および世界同時大会、APBF同時大会、通信ゲームのオーバーオールの順位に対してはレッドポイントで発行する。ブリッジセンター主催ゲームを除くクラブ選手権試合及びローカル2セッション以上のオーバーオールの順位に対しては20%レッドポイント、80%ブラックポイントで発行する。これ以外はブラックポイントで発行する。

ただし、ナショナル、公式国際試合および特に指定した競技会については、この計算式を用いず、第13条に定めた規定のポイントを発行する。

① 公式中の記号と係数

A : ゲーム係数

インディビデュアル	0.8
ペア	1
チーム (オーバーオール)	1.1
チーム (セッション)	1
HTペア	1.6

P : プレイヤ係数

インディビデュアル、ペア	5
チーム (X人チーム)	$4 \leq X$
X = チームの有資格者の人数	

R : レイティング係数

CCG	1
LOCAL	1.25
SECTIONAL	2
REGIONAL	3
NATIONAL	5
APBF	7
OLYMPIAD	8
BERMUDA	10
その他国際試合	3

L : リミッティング係数

$$L = \frac{L1}{16} \times \frac{L2}{16} \times \dots \times \frac{Lx}{16}$$

L1 : クラスによるもの (CCGだけに適用)

クラス 2	1 2
〃 3	1 4
〃 4	1 6
〃 5	1 8

※クラス 3 以下で L3 のリミッティングが L1 のリミッティングを下回る場合、L1 に換わって L3 のリミッティングを適用する。

L2 : 性別、年齢、所属団体などによる制限

a) 一般

オープン	1 6
リミット	1 4

b) 国際試合係数

オープン	1 6
ウィメンズ	1 4
シニア	1 2
ジュニア (-26)	1 0
ヤングスター (-21)	8

L3 : マスターポイントまたはシードポイントでの制限

a) マスターポイント (MP) による参加制限

基準MP	上限	下限	組合せ
制限無し	1 6	—	
1 5 0 0	1 4	—	
1 0 0 0	1 3	—	—
7 5 0	1 2	—	1 4
5 0 0	1 1	—	1 3
3 0 0	1 0	2 0	1 2
2 0 0	9	—	1 1
1 0 0	8	—	1 0
5 0	7	—	9
2 0	6	—	8
5	4	—	6

b) シードポイント (SP) による参加制限

係数	チーム	ペア	個人
1 3	8 0 0	4 0 0	2 0 0
1 1	6 0 0	3 0 0	1 5 0
9	4 0 0	2 0 0	1 0 0
8	2 0 0	1 0 0	5 0

7	1 0 0	5 0	2 5
6	5 0	2 5	1 3

チームの S P は上位 4 人の合計、ペアの S P は 2 人の合計とする

c) その他の制限

ハンディ付	1 0
イーブンチャンス	1 0
抽選ペア・チーム	1 4

※表記の上限は未満、下限は以上として扱う

※抽選ペア・チームはセクショナル以上の競技会に適用する

L4: 複数フライトの分割

フライト数	A	B	C	D	E
2	1 8	1 0			
3	2 0	1 1	9		
4	2 2	1 2	10	8	
5	2 4	1 3	11 $\frac{1}{3}$	9 $\frac{2}{3}$	8
6 以上	A = 2 4	B = 1 4	最下位フライト = 8		

$$\text{その他中間フライト} = \left( 1 4 - \frac{6 \times (X - 2)}{Y - 2} \right)$$

X = X 番目のフライト、Y = 総フライト数

L5: 予選、決勝

予選 (4セッション未満)	8
〃 (4セッション以上)	1 6
決勝	1 6

(競争者数は予選参加数、セッション数は決勝 + 予選 × 1/2)

※上記係数はレッドポイントだけに適用

選抜試合	1 6
本戦	
A: 選抜試合優勝相当を対象	3 2
B: 選抜試合上位入賞を対象	2 4
C: 選抜試合入賞を対象	1 8

L6: (削除)

L7: 平日開催係数 (レッドポイント発行のゲームに適用)

平日開催	1 4
(期日指定の平日開催 I M P は含まない)	
週末及び祝日、休日に開催	1 6

L8: I M P リーグ

オープン	1 6 *
メジャー I	1 4
メジャー II	1 2
シニア	1 0

マイナー	8
ジュニア I	6
ジュニア II	4

\*単独開催のオープンは1 4

社会人メジャー	2 2
社会人シニア	1 4
社会人マイナー	1 0
社会人ジュニア	6

社会人リーグは他にL 2係数がかかる

T : テーブル数

インディビデュアル・ペア・チームとも参加テーブル数  
予選・決勝のある決勝ラウンドは予選参加延べテーブル数

S : セッション係数

1 ~ 6 セッションの場合、S = セッション数

6 セッションを越えた場合、S = (セッション数 - 6) ÷ 2 + 6

N : 順位係数

チーム戦  $N = 1 / \text{順位}$

ペア戦 1 位  $N = 1$

2 位  $N = 0.7$

3 位  $N = 0.5$

4 位以下  $N = \text{前の順位係数} \times 0.8$  または  $(1 / \text{順位})$  の  
大きい方

V : 勝ち試合の合計 V P (勝ちチームへの加算 V P は除く) または合計勝ち数  
ペアまたはB-a-Mチーム等は、セッション毎のスコア (アベレージ未満のスコアは除く、ただしストラティファイドの下位フライトはそのフライトで  
50%以内の順位までを計算する)

M p 1 : 直前の1年間で獲得したマスターポイント (小数点以下切り捨て)

M p 5 : 直前の5年間で獲得したマスターポイントを以下の式で求めたもの

M p 5 = 直前の1年間で獲得したマスターポイント

+ 2年前から1年間で獲得したマスターポイントの  $1 / 2$

+ 3年前から1年間で獲得したマスターポイントの  $1 / 3$

+ 4年前から1年間で獲得したマスターポイントの  $1 / 4$

+ 5年前から1年間で獲得したマスターポイントの  $1 / 5$

(小数点以下切り捨て)

M p : M p 1 と M p 5 の  $1 / 2$  の多いほう。

R p 1 : 直前の1年間で獲得したレッドポイント

R p 1 0 : 直前の10年間の獲得レッドポイントを以下の式で求めたもの

R p 1 0 = 直前の1年で獲得したレッドポイント

+ 2年前から1年間で獲得したレッドポイント  $\times 0.7$

+ 3年前から1年間で獲得したレッドポイント  $\times 0.7$  の2乗

+ 4年前から1年間で獲得したレッドポイント×0.7の3乗  
 + 5年前から1年間で獲得したレッドポイント×0.7の4乗  
 + 6年前から1年間で獲得したレッドポイント×0.7の5乗  
 + 7年前から1年間で獲得したレッドポイント×0.7の6乗  
 + 8年前から1年間で獲得したレッドポイント×0.7の7乗  
 + 9年前から1年間で獲得したレッドポイント×0.7の8乗  
 + 10年前から1年間で獲得したレッドポイント×0.7の9乗  
 (小数点以下切り捨て)

R<sub>p</sub> : R<sub>p1</sub>とR<sub>p10</sub>の1/3の多いほう。

G R<sub>p</sub> : 現在のレッドポイントの1/20(小数点以下切り捨て、最大400)

M : 1試合で獲得できる最大のV P (勝ちチームへの加算V Pは除く)、勝敗で決するときは1

B : 1試合もしくはセッションのボード数

Sc : (テーブル数-1) 小数点切り捨て

S1 : マッチポイント	1
IMPペア	10
Total Point	500

Av : セッションのアベレージ

V/M : チーム戦 V/M

それ以外  $3 \times (V - Av) / (B \times Sc \times S1) + 0.3$

※ただしV/Mの範囲は0~1

※%で評価される競技会やB-a-Mチーム(+VPを含む)は、マッチポイントに換算してV/Mを算出する。

② オーバーオール計算式

$$A \times R \times L \times (4 + 0.2 \times T \times S) \times N / P$$

③ V/M

チーム戦・HT戦 : V/M

ペア戦・B-a-Mチーム戦 :  $3 \times (V - Av) / (B \times Sc \times S1) + 0.3$

④ セッション計算式

$$\frac{3 \times R \times L}{P} \times \frac{B}{24} \times \frac{V}{M}$$

⑤ シードポイントの計算式

$$\frac{1}{2} M_p + R_p$$

(小数点以下切り捨て、ただしG R<sub>p</sub>の方が多い場合はG R<sub>p</sub>)

## 第2章 マスターポイント計算の一般規則

### 第3条 マスターポイント計算の範囲

マスターポイントは小数点以下第3位を四捨五入し2位までもとめるが、0.01未満になった時は切り捨てる。

### 第4条 マスターポイントの限度

マスターポイントは下記上限と下限がある。上限はオーバーオールとセッションのマスターポイントを別個に適用する。複数セッションのオーバーオールの上限は下記ポイントの上限値にセッション数をかけたものとするが、第13条に定められたポイントを除き100点を超えることはない。上限を越えた場合は1位のポイントは上限のポイントとなり、2位以下のポイントはそのポイントから順位係数を乗じたものとなる。

	上限	下限
ウィークリー及びシリーズ	1.00	0.01
クラブ選手権試合	2.50	0.01
ローカル	3.00	0.01
セクショナル	5.00	0.01
リジョナル	10.00	0.01
ナショナル	12.50	0.01

### 第5条 マスターポイントを与える範囲の順位

マスターポイントは競争者数の35%（端数切上）の範囲まで与える。

シリーズゲームはシリーズの対象となったゲームの平均競争者数の35%の範囲まで与える。

### 第6条 同順位のマスターポイント

該当する順位のマスターポイント（小数点以下3位を四捨五入する前のもの）の平均を与える。

同順位がマスターポイントの与えられない範囲におよんだときは、発行されるものと仮定して算出したマスターポイントの平均を与える。

### 第7条 連盟が発行するマスターポイント

クラブ選手権試合以上の格のゲームのマスターポイントはセッションとオーバーオールの合計点をすべて連盟から発行する。

### 第8条 クラブが発行できるマスターポイント

クラブは①または②で算出したいずれか多いマスターポイントに加えて③のマスターポイントを別個に発行できる。

マスターポイントの発行は各試合ごとの結果に応じフラクショナルマスターポイント証で発行する。

### 第9条 複合している競技会のマスターポイント

2つ以上の異なる試合形式、採点方式を組合わせた競技会は区別してマスターポイントを計算する。

### 第10条 参加制限をはずれた参加者のマスターポイント

参加制限にはずれた参加者のはいったペアやチームは失格する。しかし、ディレクターが運営の都合上参加させたときは、オーバーオール順位にはいっさい関係ないが、セッションのマスターポイントだけを与える。

#### 第11条 必要出場回数

試合要項に明記されていない場合、自チームが消化した全試合の50%以上の試合に出場していないプレイヤーは失格する。不戦勝の試合は任意のプレイヤーが出場したことにできる。不戦敗の試合は試合数に数えるがチーム全員が不出場として計算する。

#### 第12条 不戦勝のマスターポイント

組合せの都合上不戦勝になった試合のマスターポイントは与えない。  
相手チームの棄権による不戦勝にはマスターポイントを与える。

### 第3章 ナショナルおよび公式国際試合でのマスターポイント

#### 第13条 特定競技会でのマスターポイント

ナショナルおよび公式国際試合において発行されるレッドポイントは、マスターポイント規則の計算式によらず、下記の通りの固定値を最上位フライト優勝チームまたはペアに与える。2位以下のポイントはマスターポイント規則の順位係数により算出する。下位フライトに対しては、規則に定めるフライト係数またはMP制限係数等を最上位優勝ポイントに乗じたものを優勝者のポイントとし、2位以下は順位係数により算出する。

国外の試合で年間獲得に加える対象競技会(第14条)のチーム戦におけるプレイヤー係数は常に6とする。

WBF競技会はWBFマスターポイントから以下の通り算出する

※チーム戦：WBFマスターポイント（順位に対するポイントのみ、1人あたり）の40%をレッドポイントで、勝VP・勝数によるポイントを計算式によりブラックポイントで発行する。

※ペア戦：WBFマスターポイントの30%をレッドポイントで、20%をブラックポイントで発行する。

※決勝ラウンドにおいてWBFマスターポイントが発行されない場合、当該競技会でWBFが発行する最下位順位のマスターポイントの60%をレッドポイントへ換算する。

※WBFシニアポイントに関しては、さらに12/16の係数を乗じる。

※代表選手権の参加チーム数が少ないときの固定マスターポイントについて

(a)参加チーム数が4チーム以上のときは100%の固定マスターポイントを発行する。

(b)参加チーム数が3チームのときは75%の固定マスターポイントを発行する。

(c)参加チーム数が2チームのときは50%の固定マスターポイントを発行する。

(d)参加チーム数が1チームのときは固定マスターポイントを発行しない。



競技会名	発行ポイント
	(チーム戦はチームあたり、ペア戦は1人あたり)
A P B F 選手権	7 2 0
A P B F コングレス	4 8 0
A P B F オープンペア決勝	4 4 . 8 0
N E C 杯決勝 K O	3 0 0
N E C 杯予選 R R	3 0 0
高松宮記念杯・朝日新聞社杯	4 0 0
藤山杯	2 0 0
文部科学大臣杯決勝	1 6 0
文部科学大臣杯地区予選	
1 次予選を含む 3 日間以上	2 0 0 (1 次予選は計算式を使用)
2 日間	1 0 0
1 日	5 0
横浜 S R R & スイスチーム	1 6 0 (予選は計算式を使用)
横浜 スイスチーム	1 0 0
玉川高島屋 S ・ C 杯	1 7 5
日本リーグ 1 部	3 2 0
2 部	1 6 0
クラブリーグ 1 部	1 0 0
2 部	5 0
3 部	3 2
4 部以下がある場合は 2 部が 5 0 点、最下位が 3 2 点として等差をとる	
横浜オープンペア	
(N E C 杯が併催の場合)	3 0
(N E C 杯が併催されないの場合)	2 0
任天堂杯・山口知也杯	4 0
ブルーリボン杯	6 0
レッドリボン杯	1 5
外務大臣杯決勝	3 2 (予選は計算式を使用)
高松宮妃記念杯・全日本女子ペア選手権決勝	
	2 8 (予選は計算式を使用)

#### 第14条 年間獲得ポイントに加算する国外競技会

国外の試合で獲得したマスターポイントを年間獲得ポイントに加える対象競技会は、原則として下記の A P B F 及び W B F の公式戦に限る。その他の競技会で獲得したマスターポイントは、年間獲得ポイントには加算せず、合計ポイントに加算する。

- ・ A P B F 選手権、アジアカップ、コンGRES、オープンペア
- ・ バミューダボウル、ベニスカップ・シニアボウル・トランスナショナルチーム
- ・ 世界チームオリンピック・トランスナショナルミクストチーム
- ・ 世界ブリッジ選手権（ローゼンブルム、マコーネル、シニアチーム／ペア、オープン／ウィメンズ／ミクスト／IMPペア）
- ・ 世界ユースチーム選手権／世界ユース選手権／世界大学選手権

#### 第4章 海外でのマスターポイント

##### 第15条 海外のマスターポイントの移籍

会員・会友がWBF傘下各組織で獲得したマスターポイントは、規定の換算比よりブラックポイントとして移籍できる。

##### 第16条 みなしマスターポイント

WBF傘下各組織での獲得したマスターポイントは、みなしマスターポイントとして競技会の参加制限の対象となる。マスターポイント制度の無い国でのブリッジ経験者には、次の表のもとにみなしマスターポイントとする。またみなしマスターポイントに応じてみなしシードポイントを以下の通りとする。みなしマスターポイントとJCBLのマスターポイント、シードポイントは多い方を優先する。

レベル	みなしマスターポイント	みなしシードポイント
代表 World Class	5000～	400
熟練 Expert	1000～4999.99	150
上級 Advanced	300～999.99	50
中級 Intermediate	100～299.99	15
初級 Beginner	20～99.99	5
入門 Novice	0～19.99	0

#### 第5章 マスターポイント規則の改定

第17条 当規則の改定は競技委員会の議決後、理事会の承認を経て発効する。